

ギボウシ類

(山菜名: ウルイ、ギンボ、タキナなど)



食

天然のギボウシ類

写真提供: あきた森づくり活動サポートセンター



食

←食用栽培のギボウシ類



オオバギボウシの花→

- 全国の山間の湿地などに自生する多年草。約20種が自生。
- 春先に若葉や葉柄を食用し、軽いぬめり気がある。丈夫で株が増えやすく、栽培も多い。
- 主たる品種であるオオバギボウシは、草丈50-100 cm、葉の長さは30-40 cm、幅は10-15 cm。
- 根元から長い葉柄が伸び、葉の形は長楕円形で、太い中央脈があり、そこから側脈が伸びる。裏面は毛が無く滑らか。
- 新芽は葉が巻き込むようにつき、葉脈は裏面に浮き出ている。
- 夏に、やや下向きに漏斗型の白色又は淡紫色の花をつける。
- 観賞植物としても利用。
- 有毒植物と混じって自生している場合があり注意。(下図参照)

ギボウシの中央脈



中央脈

↑ギボウシ(左)とバイケイソウ(右、毒草)が混じって自生していた例

←ギボウシの新芽

写真: 厚生労働省「自然毒のリスクプロファイル」から引用(上下2枚とも)

【間違いやすい有毒植物】

バイケイソウ類、コルチカム(イヌサフラン)、ヒメザゼンソウなど

ギボウシ類と間違いやすい**有毒植物**

バイケイソウ類

- 北海道から本州の深山の沢沿いや湿地に群生する多年草。
- 初夏に、茎の先に多数の白-緑色の小花を円錐形状につける。
- 種類によるが、草丈は50-150 cm。
- 新芽は葉脈にそって折りたたまれており、葉の裏面から見ると葉脈のところかへこんでいる。葉柄がなく、葉脈は平行に走っており、中央脈もない。
- 葉の裏面には細かい毛。
- 葉に猛毒のアルカロイドを含み、食べると死亡する場合もある。



←バイケイソウの新芽
写真: 厚生労働省
自然毒のリスクプロファイルから引用

葉脈は平行で、へこんでいる。

バイケイソウの群生→



←バイケイソウの花

写真提供: 農研機構動物衛生研究部門

コルチカム(和名:イヌサフラン)

- 秋咲きの観賞植物。コルチカムの名称で販売されているが、アキスイセンやオータムクロッカスの別名もあり。
- 球根から伸びる花茎に淡紫紅色の花がつく。翌春に根元から葉を重なり合うようにつける。
- 猛毒のアルカロイドを含み、食べると死亡する場合もある。

コルチカムの葉→



↑コルチカムの花
写真提供: 国立科学博物館
筑波実験植物園

ヒメザゼンソウ

- 北海道から本州の山地の湿地に自生する多年草。
- 早春に、長い葉柄を持つ、長さ10-20 cm、幅7-12 cmの葉を根元からつける。葉には中央脈があり、側脈をつなぐ網目状の横脈が目立つ。
- 初夏に、暗紫褐色の仏炎苞を持つ数cmの小さい卵状の花序をつける。
- 食べると皮膚炎や消化器障害がおきる。

ヒメザゼンソウの葉→

写真: 厚生労働省「自然毒のリスクプロファイル」から引用



←ヒメザゼンソウの花と仏炎苞
(外側が仏炎苞と呼ばれる葉が変形したもので、内側の卵状のものが花)



見分け方の主なポイント

- 鱗茎や葉柄の有無、葉の付き方、葉脈を良く観察し、それぞれの植物の特徴と比較する。春先の新芽の葉が開いていない時期は、特に、バイケイソウ類をギボウシ類と間違えやすいので、十分に注意する。
- それぞれ異なる花をつけるので、開花期に栽植場所、自生箇所を確認する。(農地、菜園では野菜類と園芸植物は明確に区分、識別しておくこと。)